

2018年度 農林水産省・文部科学省後援

日本 農業技術検定

検定試験日 第1回 7/14(土) 第2回 12/8(土)

応募期間

第1回 5月1日(火)～6月1日(金)
第2回 10月1日(月)～11月1日(木)

受験級

第1回 3級・2級
第2回 3級・2級・1級



群馬県立勢多農林高等学校の全6学科の生徒達（校舎前、かやの木の前にて）

学生時代に農業を勉強 した成果を発揮しよう！ 進学や就職に備えて農業知識のキャリアアップを図ろう！

日本農業技術検定は、わが国の農業現場への新規就農のほか、農業系大学への進学、農業法人や関連企業等への就業を目指す学生や社会人などを対象として、農業知識や技術の修得水準を客観的に把握し、教育研修の効果を高めることを目的として、平成19年度から実施している農業専門の全国統一の試験制度です。

高校で学んだ農業に関する実践的知識の修得水準を客観的に測定しますので、将来に向けたキャリアアップに役立ちます。

実施主体

日本農業技術検定協会
(事務局：一般社団法人全国農業会議所)
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8

TEL：03-6910-1126 FAX：03-3261-5131
e-mail：kentei@nca.or.jp

日本農業技術検定協会構成団体

全国農業協同組合中央会／全国町村会／全国農業高等学校長協会／全国農業大学校協議会／全国農学系学部部長会議／全国大学附属農場協議会／(公社)日本農業法人協会／(一社)全国農業改良普及支援協会／(公財)農民教育協会／(公社)国際農業者交流協会／(一社)日本農業機械化協会／(一社)全国農協観光協会／(一社)農山漁村文化協会／(一社)全国農業会議所(事務局)の14団体によって構成されています。

日本農業技術検定概要

第1回

2018年7月14日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

第2回

2018年12月8日(土)

3級 10:00~10:40 (40分)

2級 11:10~12:10 (60分)

1級 13:00~14:30 (90分)

応募期間

第1回 5月1日(火)~ 6月1日(金)

第2回 10月1日(月)~11月1日(木)

試験会場

一般受験は東京・大阪等各地の指定会場

団体受験は試験実施団体の準備・提供した会場

受験料

	一般受験	団体受験	団体受験 (学生割引)
3級	3,080円	2,570円	1,540円
2級	4,110円	3,290円	1,540円
1級	5,140円	4,110円	3,080円

※平成29年度優秀団体(農業高等学校の部)

[3級]東京都立園芸高等学校、岩手県立千厩高等学校、東京都立農産高等学校、富山県立氷見高等学校、徳島県立吉野川高等学校

[2級]大分県立三重総合高等学校、神奈川県立中央農業高等学校、愛知県立半田農業高等学校、愛知県立安城農林高等学校、熊本県立菊池農業高等学校、宮崎県立宮崎農業高等学校、宮崎県立高鍋農業高等学校

※酪農学園大学、拓殖大学北海道短期大学、秋田県立大学、日本大学、玉川大学、東京農業大学、信州大学、岐阜大学、京都府立大学、県立広島大学、山口大学、宮崎大学、琉球大学、鳥取大学、佐賀大学、東海大学でも大学生の団体受験が進められています。日本大学生物資源科学部では農場実習の中で本検定受験を取り入れています。

※本検定は一定レベルの農業に関する実務的知識を取得していることの証明になります。

※JAふくおか八女、JAしみず、JAかながわ西湘、JAみな穂、JA粕屋、JA福岡中央会、JA福井県中央会、JA兵庫みらい、JA糸島、JAいずみの、JAフルーツ山梨、JA柳川、JAみい、JA筑前あさくら、JAたがわ、JAむなかた、JA福岡京築、JAおおいた、JA東京中央、JAあわじ島、JAグリーン近江、JA越後ながおか、JA松任、JAにし、JAくるめ、JAぎふ、JA丹波ひかり、JA長野県営農センター、JAみなみ筑後、JAなんすん、JA永平寺、JA三原、JA岩沼市、JA東びわこ、JA西びわこ、JA石川県中央会、JA佐波伊勢崎、JA高知市、JA新はこだて、JA御殿場、JA周南、JA大阪南、JA大阪泉州、JAおきなわ では営農指導力の向上やJA一般職員のキャリアアップを目的に団体受験が進められています。JA営農指導員上位資格の要件の一つとして本検定を取り入れているところもあります。

試験方法

[3級] 学科試験のみ

[2級] 学科試験+実技試験

[1級] 学科試験+実技試験

※1、2級も学科試験のみの受験が可能です。学科に合格した場合は、「学科試験合格証明書」を発行します。なお、2級実技試験は、JAの営農指導及び営農関係業務に1年以上携わっている場合は免除措置があります。詳しくはホームページをご覧ください。

3級 試験科目	農作業の意味がわかる入門レベル	<ul style="list-style-type: none"> 農業基礎として共通30問 「栽培系」「畜産系」「食品系」「環境系」から1科目選択で20問、うち5問は10問の中から選択。環境系の5問は3種類(造園、農業土木、林業)から1つを選択 四者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象：農業高校生	
2級 試験科目	農作物の栽培管理等が可能な基本レベル	<ul style="list-style-type: none"> 農業一般として共通15問 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で35問 五者択一のマークシート方式による計50問
	主な受験対象：農業大学生・大学生 JA営農指導員・農業高校生	
1級 試験科目	農業の高度な知識・技術を修得している実践レベル	<ul style="list-style-type: none"> 農業一般として共通20問 「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問 五者択一のマークシート方式による計60問
	主な受験対象：JA営農指導員・大学生 農業大学生	

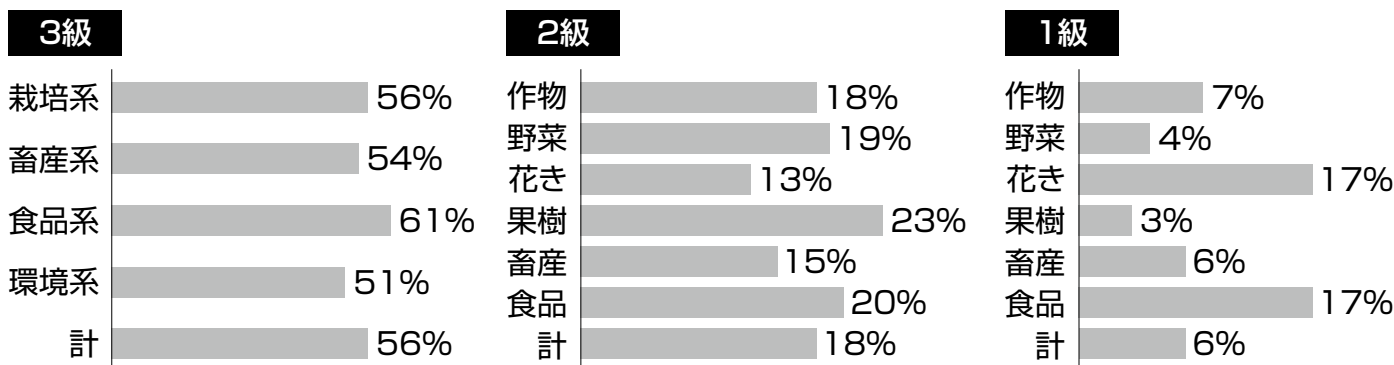
日本農業技術検定の受験実績

①全体受験実績(平成25～29年度)

(受験者数(人)
合格率(%))

	3級	2級	1級	合計
平成25年度	18,405人 (62%)	3,859人 (22%)	293人 (5%)	22,557人 (54%)
26年度	18,411人 (67%)	4,104人 (23%)	258人 (9%)	22,773人 (59%)
27年度	18,926人 (68%)	4,949人 (21%)	245人 (10%)	24,120人 (58%)
28年度	20,183人 (62%)	5,350人 (19%)	308人 (8%)	25,841人 (53%)
29年度	20,681人 (56%)	5,743人 (18%)	277人 (6%)	26,701人 (47%)

②科目別合格率(平成29年度)



③合格基準

【3級】 100点満点の原則60%以上

【2級】 100点満点の原則70%以上

【1級】 120点満点の原則70%以上

実技試験

(2級、1級試験では学科のみの受験も可能です。学科試験合格者には学科試験合格証が交付されます。実技試験までご希望の方は以下をご参照ください)

①2級実技免除

2級実技試験(農業機械についてのほ場での実地検定)の希望者は11月に受験の機会があります。農業系の学校(農業高校、農業大学校、大学等)での農場実習、農業経験(JAの営農指導経験を含む)1年以上、2級実技試験免除規定に指定する農業用機械・食品加工の2機種(工程)以上を履修していれば免除が可能となります。

学校での2級団体受験の場合は、学校(団体)としての2級実技免除手続きをお薦めします(5年間有効)。具体的な手続きは本検定ホームページをご覧ください。

②1級実技試験

1級実技試験は1級学科試験合格者の希望により受験が可能です。1級実技試験(ペーパー記述式テスト)は2年以上の営農経験(JA営農指導等を含む)又は大学等での農場実習4単位を取得している者が受験可能です。実技試験そのものの免除はありません。詳細はホームページをご覧ください。

申込方法

お申し込みは <https://www.nca.or.jp/support/general/kentei/>
ホームページから ※インターネット環境がない方のために、FAX・郵送でも受付可。

①一般受験

個人がインターネットで申込み場合は、申込方法の「一般受験」画面から申し込む。

「農の雇用」事業研修生は、都道府県農業会議が受験者をまとめてインターネットで申し込む。

※受験料の振込先口座番号は受験者別になっており、毎回変わります。

②団体受験

学校・JA・農業法人などの実施団体がインターネットで申込み場合は、申込方法の「団体受験」画面から申し込む。

※一般受験も団体受験も応募期間内に受験料をお振込みください。

テキスト・参考書 (購入方法などの詳細は検定ホームページをご覧ください)

2018年度版
日本農業技術検定
過去問題集
好評販売中!

3級

- (1) 2018年度版日本農業技術検定3級問題集 (発行)全国農業高等学校長協会 (2016年度、2017年度試験問題4回分を収録)
- (2) 日本農業技術検定3級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
- (3) 日本農業技術検定 傾向と対策 (発行)全国農業高等学校長協会
- (4) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版社

2級

- (1) 2018年度版過去問題集2級 (発行)全国農業会議所
※2017年度試験問題2回分を収録
- (2) 日本農業技術検定2級テキスト (発行)全国農業高等学校長協会
- (3) 文部科学省検定教科書 高等学校農業用 (発行)教科書出版社

1級

- (1) 過去問題集1級…日本農業技術検定協会(全国農業会議所)
※2015、2016、2017年度試験問題、年度毎に実費販売
- (2) 日本農業技術検定1級…参考図書例 農業関係出版社

※1級試験問題は過去問題の出版物はありません。ホームページをご覧の上、日本農業技術検定協会事務局宛(kentei@nca.or.jp)にメールにてご連絡ください。実費でコピーして送付いたします。

※テキスト・参考書については、それぞれの発行元にお問い合わせください。 全国農業高等学校長協会 TEL.03-5357-1666

高校での団体受験の取組み紹介

農業分野の専門基礎知識の定着指標として日本農業技術検定を活用

群馬県立勢多農林高等学校は県下全域から受験者が集う農業高校として、植物科学科、バイオテクノロジー科、動物科学科、緑地土木科、食品文化科、グリーンライフ科の全6学科を設置している全校生徒が700名を超える県内の中心的な農業高校である。平成28～30年度の3ヶ年、農業高校としては関東で唯一、文部科学省より「スーパープロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」の指定を受けている。「課題解決実践力」を身に付けた人材育成を目標に、農業学習の基礎に重きを置く日頃の座学と実習やプロジェクト学習による授業の積み重ねの上に、地域連携活動や先進農家等へのインターンシップを3年間系統的

に行い、生徒が実社会に出た時のことを想定した、バランスのよい学習を展開しているのが特徴だ。日本農業技術検定は日頃の学習成果を測る専門基礎知識の定着指標として位置付け、毎年200名を超えて団体受験しており、希望者は2級を受検している。卒業後の生徒の進路は、進学・就職とおおよそ半々であるが、進学する生徒は自身の実力の客観的評価を調査書等に提示できる指標として、就職する生徒は履歴書に記載できる資格の一つとして役立てている。農業学習の基礎に重きを置く日頃の授業を通して学び得た能力の定着指標として、日本農業技術検定の資格取得は、生徒のキャリア構築に役立っている。

協賛企業・団体の募集を始めました

日本農業技術検定への協賛企業・団体の参加状況

日本農業技術検定は、農業教育に関連する全国14団体による日本農業技術検定協会を組織して実施していますが、この度本検定の取り組みの必要性にご理解をいただける企業・団体を募集したところ、以下の企業・団体のご参加がありましたのでご紹介いたします(平成30年3月1日現在)。今後、参加をご希望される企業・団体はホームページをご覧の上ご連絡ください。



日本農業技術検定に関するお問い合わせ

日本農業技術検定協会 (事務局：一般社団法人 全国農業会議所)

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3261-5131 e-mail:kentei@nca.or.jp